

## 五国SSH連携プログラム

### 「プラネタリウム解説動画コンテンツをつくろう～星空の感動をつたえよう～」

兵庫県内のSSH校が協同して実施している五国SSH連携プログラム「プラネタリウム解説動画コンテンツをつくろう～星空の感動をつたえよう～」に**本校普通科1年生（3名）**が参加しています。このプログラムは明石北高校が主催したもので、明石市立天文科学館の学芸員さん達に教えてもらいながら解説動画を作っていきます。12月に明石天文科学館に出かけて、プラネタリウムを見学し投影装置のブースに入ることもできました。1月からはZoomで学芸員さんに指導してもらいながら星天の動画をつくっています。

いま、製作中の動画は「彗星の尾」「月に模様が見える理由」「日本でも見える南半球の星座」の3本です。この3本をひとつにまとめて天文科学館のホームページからライブ配信する予定です。本校の他にも県内の高校生が何人か参加し、皆それぞれ思い思いに素敵な解説動画をつくっています。

動画が完成したら、次号のDAYS通信でサイトのURLをお知らせしますので、楽しみにしててくださいね。



来年度も五国SSH連携プログラムをDAYS通信でお知らせしていきますので、面白そうなプログラムがあったら、気軽にどんどん申し込んでください!!

## SSH特別講演会を実施します

OPEN-daysプログラム（全校生徒・保護者対象）を下記の通り実施します。講師は東京大学大学院総合文化研究科で超電導に関する研究を行いながら、クイズ番組やライター、サイエンスコミュニケーター等マルチに活躍されている“ナイスガイ”の須貝駿貴さんです。須貝さんは京都府出身で、高校時代のお話や「学ぶ」ということ、サイエンスコミュニケーションについてお話いただく予定です。

日時：3月8日（月）3・4時間目（10：45～）

対象：本校生徒・保護者・卒業生・高等学校関係者

場所：本校体育館（本校生）及びライブ配信（その他）

講師：須貝 駿貴 様（国立科学博物館サイエンスコミュニケーター・株式会社QuizKnockライター）

申込：在校生は不要。卒業生及び保護者の方はライブ配信からご参加をお願いします（方法は別途配布）



QuizKnock HPより引用

## 京都大学 サイエンスフェスティバル2020 視聴募集

高大接続・高大連携活動の一環として「京都大学サイエンスフェスティバル」が、令和3年3月14日（土）～15日（日）各日9：00～21：00まで、オンラインでの開催となります。Webや動画配信を活用した、文系理系の様々な研究発表を自由に視聴できます。興味のある生徒は、下記特設サイトにて、各個人で事前申し込みを行ってください。

〈特設サイト/申込み受付システム URL <https://kyoto-koudairenkei.com/SF2020>〉

※事前登録の締め切りは令和3年2月15日（月）正午

## JSEC2020 受賞者インタビュー (後)

JSEC2020で阪急交通社賞を受賞した谷川さん・大久保さんにインタビューの後編です。今回は研究を通して後輩へ伝えたいことを聞きました。

### —後輩に伝えたい失敗談はありますか？

2人ともメモ用紙に記録し、ラボノートには整理したものを書くタイプでした。しかしGSIのときと違い課題研究では、長期間の探究で並行していくつかの条件で進めることが多く、実験量が増えてくるとメモに日付が抜けてたりと、時系列がぐちゃぐちゃになったりして苦労しました。とにかく絶対その場でラボノートに書くべきです。



### —休校期間中・自粛期間中の過ごし方は？

今回発表した内容の一部は休校期間中に自宅で実験したものが含まれています。課題研究は授業の課題(宿題)の息抜き(?)も兼ねて二人で電話しながら相談し、参考文献を手分けして読んだり実験しました。また、授業の課題について友達と電話しながら一緒にしていたので、オンライン上で議論したり発表資料を作ったりすることにもすぐに慣れました。

### —参考文献を読むポイントを教えてください。

一つの文献をじっくり読むのも大切かもしれませんが、最初は複数の文献を軽く目を通し、必要なところだけを読むことで「論文」や「文献」に慣れることが大事だと思います。特に英語の論文等はじっくり読むと、知りたいことじゃないことに躓いてやる気をなくすことも多いと思います。なので「知りたいことを探してそこだけ読む」ことに力を入れました。そのため、時にはグラフだけしか見ないということもあります。

### —教科の勉強とのバランスのとり方について

正直とても難しいです。今回は審査会が審査中ということもあって非常に苦労しました。それ以外のことも含めて全体的なことを言えば、何事も早め早めが大事です。先を見通しながら進めないと校内の発表会等でも苦労しているクラスメイトは多いです。また、テスト勉強はとりあえず出された課題を頑張っていますが、今回のようにどうしても全部できないときは「中途半端に全部やる」ではなく「できるものをまず完璧にする」ことを意識しています。教科にもよりますが、今回も基礎・基本問題だけしっかりやって応用問題はあまり手を付けられませんでした。あまり成績を落とさずに済みました。

### —探究活動を始める1年生へのアドバイス

先にも言いましたが先を見通しながら進めることはとても大切です。文献調査や実験は思っていた以上に時間がかかります。例えば実験も濃度を決めたり、その調製の手順を決めるのにも最初は思っている以上に時間がかかりました。私達は9月のリサーチプラン発表会で、予備実験を済ませ、文献調査をしっかりして臨んだこともあり、他のグループに比べいいアドバイスをもらえました。このことが今回の結果に繋がりました。更に今回の最終審査会やその練習を通じて頂いた色々な意見や指摘が今後研究を進めるヒントになっています。結果的に早め早めに進めることで、少ない労力でも研究が加速していくように感じました。

また、そのためには方向性だけでも早めに決めておいた方がいいです。そうしないと班内の意見や考えが色々な方向に散ってしまい、苦労しているチームもあります。

### —今後やりたいことは？

審査会で受けた指摘や質問を参考に、もう少し幅を広げたデータをとり、課題研究発表会に臨みたいと考えています。



今回のインタビューを通して私達1年生も課題研究のスタートが目前というタイミングでのこのインタビューは、疑問や不安を解消でき参考になりました。先を見通し、早め早めの行動を心がけていこうと思います。(藤本)

インタビューでは、1足先に2年生での生活や勉強、研究の裏側などを知ることができたので、この経験を来年いかしたいです。また、先輩方のお話はとても楽しかったので、機会があればまた話したいと思いました。(堀井)